

CASBEE® 名古屋

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE 建築環境総合性評価システム (建築環境総合性評価システム) (使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0))

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)新栄二丁目Cプロジェクト	階数	地上13F
建設地	名古屋市中区新栄二丁目202番2	構造	RC造
用途地域	商業地域・近隣商業地域・防火地域・準防火地域	平均居住人員	323 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	飲食店,集合住宅,	評価の段階	
竣工年	2024年8月 予定	評価の実施日	2023年2月22日
敷地面積	671 m ²	作成者	
建築面積	489 m ²	確認日	2023年2月24日
延床面積	4,765 m ²	確認者	

外観パース等
図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

= BEE1.0

★:☆☆☆☆☆ A:☆☆☆☆☆ B:☆☆☆☆☆ B:☆☆☆☆☆ C

環境品質 G (0-100) vs 環境負荷 L (0-100)

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

☆☆☆☆☆ 100%超:☆☆☆☆ 100%:☆☆☆☆ 80%:☆☆☆☆ 60%:☆☆☆☆ 30%:☆☆☆☆

標準計算

①参照値	92
②建築物の取組み	9
③上記+②以外のオンサイト手法	6
④上記+オフサイト手法	6

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.0

Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.3

音環境	3.0
温熱環境	3.0
光・視環境	3.0
空気質環境	4.2

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.1

機能性	2.8
耐用性・信頼性	3.1
対応性・更新性	3.4

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 2.7

生物環境	2.0
まちなみ・景観	3.0
地域性・アメニティ	3.0

LR のスコア = 2.9

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.1

建物外皮の	3.9
自然エネ	2.0
設備システ	3.2
効率的	3.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 2.7

水資源	3.0
非再生材料の使用削減	2.5
汚染物質回避	3.0

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 2.8

地球温暖化への配慮	3.1
地域環境への配慮	2.5
周辺環境への配慮	3.0

3 設計上の配慮事項		
総合 地域に調和する敷地利用計画とすると共に、街並みにアクセントを与える建物とする。		その他
Q1 室内環境 住戸に自然の光と風を採りこみ開放性を持たせると共に、断熱性と遮音性の向上を図る。	Q2 サービス性能 「ハートビル法利用円滑化基準」対応に努め、ゆとりある空間構成に努める。	Q3 室外環境(敷地内) 公共空間に圧迫感を与えない建物配置とし、敷地内の緑化に努めると共に屋上緑化を図る。
LR1 エネルギー 建物の採光・通風・断熱性の向上を図ると共に、省エネ対応に努める。	LR2 資源・マテリアル 設備機器は節水型を採用する。又、リサイクル資材の採用に努める。	LR3 敷地外環境 周辺地域の環境を害さない住空間の構成を図る。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

(仮称)新栄三丁目Cプロジェクト

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する重み係数	重点項目スコア
1. 温暖化対策				3.1
LR1	エネルギー	3.2	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	3.1	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.05	
2. 自然共生				2.3
Q3.1	生物環境の保全と創出	2.0	0.09	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	地域性のある材料の使用※1	無	0.009
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	3.0	0.045	
3. 循環型社会				2.7
LR2.1	水資源保護	3.0	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	2.5	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	3.0	0.01875	

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 3.1



2. 自然共生

評価点 = 2.3



3. 循環型社会

評価点 = 2.7



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。